

(様式 1-2)

調査研究 中間報告書

平成 28 年 6 月 16 日作成

研究者 (所属・氏名) : 環境部 安川 聡浩

研究課題名 (継 続)	福井県におけるオキシダント高濃度予測手法の構築			コードNO. II B-8
共同研究者 (担当分野)	吉川昌範 (統括調整)			
研究期間	平成 27 年度から 28 年度まで (2 年間) (本報告対象期間 : 27 年度まで)			
研究予算 見込額 (千円)	全体	年度	年度	年度以降
	0			
研究目的 および 必要性	福井県独自のオキシダント高濃度予測手法を確立することで、予告や注意報発令に向けた準備体制を速やかに構築することが可能となり、健康被害軽減につながる。			
進捗状況	高濃度因子の抽出			
研究内容 および これまでの 成果	<p>○高濃度因子の検討</p> <p>越境汚染による高濃度が顕著になり始めた H14 年度以降のデータのうち、90ppb 以上の高濃度となった日およびその前日について解析を実施。</p> <p><解析対象項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オキシダント濃度 ・ポテンシャルオゾン濃度 (PO=Ox+NO₂-0.1NO_x) ・天気 ・気圧配置 ・風向風速 ・気温 <p>※気象データについては、天気予報で入手可能な項目に限定</p> <p>上記項目を用いて重回帰分析を行い、日最高 Ox 濃度との相関が強い因子について検討評価した。</p>			
本年度の 計画	Ox 高濃度と関連の強い因子を抽出し、当該因子を用いた予測手法を構築する。			
研究の特色	[独創性や新規性等] O x 高濃度に応じた予測手法の構築は本県初である。			

期待される 成 果	1. 県民生活や産業社会への波及効果 予告や注意報発令に向けた準備体制を速やかに構築することが可能となり、健康被害軽減につながる。		
	2. 業務遂行のレベルアップへの寄与等 Ox 高濃度時において、予告や注意報発令に向けた準備体制を速やかに構築できる。		
本年度の 所要経費 (概 算)	1. 報償費 千円	4. 使用料および賃借料 千円	合計
	2. 旅 費 千円	5. 備品購入費 千円	
	3. 需用費 千円	6. その他 千円	0千円
外部（県民等） への効果的な 発信実績 (予定可)	題名	発信媒体、方法等	発信年月
備 考			